

音楽

日本の音楽を味わおう ～「越天楽今様」～

6年2組

授業者 斎藤 幸江

■ 単元の目標

- 旋律の特徴や楽器の音色に関心をもって、進んで聴いたり表現したりしようとしている。
- 旋律や楽器の音色など日本の音楽の特徴を感じ取って、表現の仕方を工夫している。
- 曲想をとらえて、歌ったり楽器を演奏したりすることができる。
- 旋律や音色、響きが醸し出す楽曲全体の雰囲気や美しさを味わいながら聴くことができる。

■ I C T 活用の視点

○ 確かな学力をはぐくむために

日本の伝統音楽は、我々日本人として大切に守り伝えていかなければならない重要な題材である。しかし本時で学習する雅楽は、普段なじみが薄く、実際に生の演奏を聴く機会があまりない。そこでDVDを使って演奏の様子を映像で観たり、雅楽や雅楽の楽器についてデジタルコンテンツを使って調べる学習を取り入れる。楽器の音色を聴くことで学習に広がり、臨場感あふれる演奏がいつでも何回でも観ることができ、楽器の使い方など、基礎基本を着実に身につけることができる。

○ 学び合い高め合える意見交流活動をするために

自分たちの演奏をビデオで撮り、後から客観的に演奏を振り返ることで、より活動が深まったり、ビデオは、相互アドバイスをしたり、練り合いをしていくために大変効果的である。

■ 本時の授業の概要

日本の音楽である雅楽をより積極的に深く味わわせるために鑑賞と表現の一体化を図った。前時にコンテンツやDVDを使って雅楽「越天楽」を学習し、雅楽の楽器の音色や音楽の特徴を感じ取らせる。微妙な音のピッチや間、ゆったりしたテンポ観などをてががりにして、本時ではより深く味わうためにグループにわかれ自ら「越天楽今様」を演奏する。身近なリコーダーや・ピアニカオルガンなどの楽器を使ってより雅楽の雰囲気に近づくよう表現の工夫をしていく。ビデオを聴いての話し合いやグループでの練り合いが授業のポイントである。最終的には、グループごとに発表する。

本時の目標

雅楽の雰囲気を感じ取り、表現を工夫して「越天楽今様」を演奏することができる。

学習活動	指導上の留意点
1.学習の雰囲気をつくる。 「越天楽今様」を歌う。	歌の大意を確認し、ゆったりした速さで歌う。 見通しをもって活動できるように声をかける。
2.本時のめあてを確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">雅楽の雰囲気により近づくよう表現の仕方を工夫して、グループごとに「越天楽今様」の演奏を楽しもう。</div>	
3.表現の工夫をする。 (1)雅楽「越天楽」の楽器の音色の特徴や曲の特徴を確認し、前時の自分たちの演奏をビデオで振り返り、表現を工夫する所を話し合う。 ※楽器の音色の特徴 ※曲の特徴	前時に学習した雅楽の特徴を確認し、雅楽「越天楽」と自分たちの演奏を比較しながら、更に表現の工夫をする所をアドバイスし合う。
 (2)グループごとに表現の工夫をする。 ※予想される児童の楽器選択 B グループ ①主旋律・歌とリコーダーと箏 ②対旋律・鉄琴 ③和音伴奏(笙) オルガン ④全体の伴奏 ピアノ ⑤リズム伴奏 鉦・ウッドブロック ※予想される児童の音楽的表現 速度・歌と楽器のバランス・フレーズの出だしの微妙なズレ・前奏に太鼓	主旋律から伴奏部分の5パートの楽器選びや演奏の仕方をポイントにそれぞれ助言、賞賛する。 演奏の速度や間の取り方、独特な音色(ピッチ)に気をつけて演奏を練りあげていくよう助言する。 主旋律や和音伴奏を基に前奏や後奏を創作しても良いことを知らせる。 ◇得意な楽器やパートを優先的に選択させる。 ◎雅楽の演奏の雰囲気を感じ取って、表現の工夫をすることができる。(表現の工夫)(演奏観察)
4.本時のまとめをする。 (1)中間発表する。 (2)次時の学習について知る。	雅楽の時代背景や速度に気を付けさせたい。 次は発表を行うことを知らせ、意欲付けする。